



# 第19回慶應・甲南柔道対抗戦



日時 令和8年2月28日（土）  
会場 慶應義塾大学綱町柔道場



令和7年度 慶甲戦 集合写真



主催 甲南大学体育会柔道部  
慶應義塾体育会柔道部  
主管 慶應義塾体育会柔道部

# 大会日程

14：00 開会式

14：15 試合開始

16：00 閉会式 (試合終了後、選手集合写真撮影)  
終了次第、懇親会開催

## 開会式次第

1. 選手入場

2. 開会宣言

慶應義塾體育會柔道部  
主務 山田 陸斗

3. 挨拶

慶應義塾體育會柔道部  
部長 フィリップ・オステン

4. 優勝杯返還

5. 審判長注意

6. 選手宣誓

甲南大学体育会柔道部  
主将 永澤 慎悟

## 閉会式次第

1. 選手整列

2. 優勝杯授与

3. 優秀選手賞授与

4. 挨拶

甲南大学体育会柔道部  
師範 山崎 俊輔

5. 閉会宣言

甲南大学体育会柔道部  
主務 高石 昇平

6. 選手退場

## 審判員

原田新一  
千竈健人  
千品洋一

## 慶應・甲南柔道対抗戦規約

第一条 本試合は慶應・甲南柔道対抗戦と称する。

第二条 本試合は学生柔道の普及発展と両校柔道部員相互の親睦と融和を図ることを目的とする。

第三条 前二条の目的を達成する為年一回対抗戦を行う。

第四条 本試合は慶應義塾体育会柔道部、甲南大学体育会柔道部が主催する。

第五条 会場 毎年いずれかの場所で開催する。

第六条 ① 試合審判規定 全日本柔道連盟の定める、国際柔道連盟試合・審判規定の団体戦勝敗決定方法を準用する。

② 優劣判定の基準 「技あり」以上、又は「反則負け」

③ 以下の試合に関する詳細は毎年の申し合わせにより決定する。

第七条 試合の運営は両校より選出する学生委員によって行う。

# 主将挨拶

## 主将挨拶

慶應義塾體育會柔道部  
主将 宗広 泰河

この度、第19回慶應・甲南柔道対抗戦が開催されますことを、心より嬉しく思います。開催にあたり、多大なるご尽力を賜りました全ての関係者の皆様に、慶應義塾體育會柔道部を代表し、厚く御礼申し上げます。

我々慶應義塾體育會柔道部は、笹野監督、朝飛師範のご指導のもと、週六日の稽古およびトレーニングに励んでおります。本年度の塾柔道部は昨年と同様、決して体格に恵まれたチームではありません。しかし、小柄であるからこそ、チームとしての一体を何よりも大切にし、一人ひとりが自身の「役割」を自覚し、できること全てを尽くす集団を目指して日々取り組んでおります。主力メンバーも昨年から大きく変わらず、これまで積み重ねてきた経験値を土台に、さらなる成長を追求しています。

2025年11月より新チームが始動して以降、少人数だからこそ一人ひとりがチームに与える影響の大きさを強く意識しながら、日々の稽古、トレーニング、そして毎週の出稽古に臨んできました。特に早稲田大学をはじめとする強豪校との稽古を通じて、自身の課題と真摯に向き合い、それを一つひとつ克服することで、着実なレベルアップを図っております。本大会は、新チームとして初めてこれまでの取り組みを試す機会であり、今後に向けて勢いをつける重要な一戦と位置付けています。

また、長年にわたり対抗戦を続けさせていただいている甲南大学とは、畳の上のみならず、合同練習や食事の場などを通じて、学年を越えた深い交流を築いてまいりました。互いに切磋琢磨し、良きライバルであり良き仲間として高め合ってきたこの関係は、我々にとって大きな財産であり、今後も後輩たちへと受け継がれていくことを願っております。

本年度、我々は東京都学生柔道優勝大会において、昨年復帰した一部リーグの座を死守するとともに、昨年を上回る成績、全国大会ベスト16を目標に掲げています。その目標に向け、チーム一丸となって全身全霊で本大会に臨む所存です。

改めまして、第19回慶應・甲南柔道対抗戦を開催していただけること、そして主将として本大会に出場できることを大変光栄に思います。当日は塾柔道部一同、これまで積み重ねてきた全てをぶつけて戦いますので、温かいご声援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 主将挨拶

甲南大学体育会柔道部  
主将 永澤 慎悟

この度、第19回慶應・甲南柔道対抗戦が開催されますことを、心より喜ばしく思います。開催にあたり、会場の準備をはじめ本対抗戦の運営にご尽力いただいた両校関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。

現在、甲南大学体育会柔道部は、山崎師範、曾我部監督、星野コーチ、喜多コーチのご指導のもと、日々鍛錬に励んでおります。

本年度は8月に4年生が引退し、幹部交代を経て3年生を主体とした新体制でのスタートとなりました。また、星野コーチを新たに迎え、より一層充実した指導体制のもと活動しております。関西学生柔道優勝大会ベスト4、全日本学生柔道優勝大会ベスト8を目標に掲げ、部員一人ひとりが自身の課題と向き合いながら、日々試行錯誤を重ねております。

部員数や戦力面において変化のある中で、弊社では少人数で強豪校と渡り合うため、キャプテンとしてどのようにチームを牽引すべきか日々模索しております。決して華やかな選手が多いわけではありませんが、泥臭く、がむしゃらに挑戦してまいります。また、キャプテンという立場になり、監督・コーチ・OBの方々の多大なる支えを改めて実感し、結果をもって恩返ししたいと強く思っております。

本年で第19回目を迎える本対抗戦において、慶應義塾大学柔道部の皆様とは、畳の上では良きライバルとして、畳を降りれば良き仲間として、今後も変わらぬ良好な関係を築いていければ幸いです。本対抗戦を通じて培われたこの関係が、今後も末永く続くことを心より願っております。

最後になりますが、本対抗戦の開催にあたり、ご尽力いただいたすべての関係者の皆様に、重ねて感謝申し上げます。

「第19回甲南・慶應柔道対抗戦」によせて

三田柔友会  
会長 森 吉平

第19回慶甲対抗柔道戦が開催されることを喜ばしいことと思います。この両校の柔道戦を開催するにあたりご尽力いただいた皆様にこの場を借りて御礼申し上げたいと思います。伝統ある東西の両校が柔道を通じて交流を継続し、今後も切磋琢磨し互いに刺激しあうことが大きな成長につながると思います。

1964年の東京オリンピックに柔道が正式種目として採用され、国際的な競技として認知されました。それ以降「競技柔道」に偏る傾向となり現在に至っています。学生スポーツの在り方も同じように競技志向が強すぎ、学生の本分である勉強在りきの学生とは程遠い現状も散見されます。慶應義塾における体育会の始まりは1877年柔道部が創設されることに始まります。お陰様で来年創立150年を迎えます。柔道部創設は福沢先生が「獣身を成して後に人心を養う」の考えから始まりました。あくまで人間教育の一環として体育を位置づけたわけです。その精神からも「体育至上主義」の考えとは異なる在り方を求めるべきです。この考えは両校の体育会に対する考えとして共通する部分を感じます。同様の精神を共有できる仲間と柔道を通しての交流を実現できるこの対抗戦の意味を噛み締めて両校選手は闘ってもらいたいと思います。

この対抗戦の伝統は毎年の積み重ねによって創り上げていくことだと思います。選手の皆さんは伝統の一翼を生きているという気持ちで臨んでください。

「第19回慶應・甲南柔道対抗戦」によせて

甲南柔友会  
会長 光本 秀行

慶應・甲南柔道対抗戦が19回の回を重ねて開催されますこと心よりお喜びを申し上げます。又、開催にあたりご尽力をいただいた両大学関係各位に深く感謝申し上げます。

さて、これまでの対戦成績を振り返りますと1回～6回迄は甲南の6連覇、7回～16回迄は2回のコロナ禍による中止をはさみ慶應の8連覇。17回、18回と甲南が連覇し、対戦成績は8勝8敗の五分となりました。本年、勝利を収めた方が勝ち越すという実に緊迫した状況で本年の対抗戦を迎えることになりました。両大学共、対抗戦勝ち越しをかけての熱い戦いが予想されます。ただ、近年両大学共、部員数の減少と共に、強化についてはかなり厳しい状況にあります。そのような厳しい状況を乗り越えて日々の稽古に励んできた学生諸君にはその成果を大いに発揮し、持てる力を如何なく出し尽していただき素晴らしい戦いとなることを大いに期待致します。そして、熱い戦いが終われば、共に東西の友として又同じ文武両道を目指し、且実践する同志として、如何にこの厳しい状況の中で、成果を挙げることができるのかを胸襟開いて話し合っ

て欲しいと思います。この対抗戦は単に柔道の雌雄を決するだけが目的ではなく、両大学柔道部の発展を共に考え、互いに協力し合うことを確認する機会であると考えます。この定期戦を通して柔道の基本理念でもある「自他共栄」の精神を学び、共に協力することで信頼し合える人間関係を築き、お互いの大学柔道部がより良い方向に向かえるように実践していただけたらと思います。是非、両大学学生諸君の試合後の交流も含め、この対抗戦が意義あるものになるように切望致します。最後になりましたが、両大学柔道部の益々の発展ならびに両大学柔道部員及び関係各位の益々のご健康、ご活躍を心より祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。